

9月24日にコンベックス岡山で開催された「コープフェスタ2016」では2月の「キッズスクール2016」の予行演習を兼ねて、「こまか庵」プロジェクトを行いました。

子供達が集まってくれるか心配でしたが、始まってすぐに小学生二人組が「やりたい」と来てくれました(写真1)。その男の子達が木工さん達の指導を受けながら組み立て始めると、会場に響く槌の音や「なんだか面白そう!」な雰囲気の子供達が次々に集まり始めました。本来は建て方の順番や板図の見方(写真2)、仕口の組み方を学習するプロジェクトですが、一気に子供達が押し寄せて、みんな「やりたいやりたい」と先を争い、それどころではなくなりました。希望者が多かったので、一打ちごとに棟梁をジャンケンをして槌を持つ子を決めて行きました。二人一組で互いに声を合わせながら左右から槌を振ると言う(写真3)、現場では当たり前作業が結構難しく、なかなかタイミングが合わなかつたり、桁を指して登ったのはいいけど一人で降りられなかつたり、目を離すと勝手に高い所へ登ったりと、色んなアクシデントもありましたが、OKCスタッフの目配り気配りのおかげで幸い怪我人も出ず、組み上がった後は遊び場になって、みんな生き生きと登ったり降りたり楽しそうでした(写真4)。

キッズスクール担当 和田 洋子



(写真1)



(写真2)



(写真3)



(写真4)

写真 お題「もっともっと」



「もっともっと」山口県のSL機関車の石炭の炎です。出発前、山を登る前、もっともつとすすめるよう沢山の石炭を燃焼しもっともつと蒸気を作ります。OKCも同様にもっともつと上れるようもっともつと燃えたいと思いこれを投稿します。



「もっと もっと...大峯山西の覗き岩での捨身行。一本の綱で吊るされています。」



添付の写真は、「平和大通り」の風景です。正面にANAクラウンプラザホテル広島が見えますが、手前に見える松らしき木の先端だけが何故か切られています。※松の木かどうかは判りませんが、剪定しているのにも思えません。隣の木は切られずに伸びているのに、何故かこの木は切られています。誰が何の目的で切ったのでしょうか。まさか広島東洋カープの優勝パレードのために切ったのでは無いと思いますが。きっとこの木も「もっともっと」高く伸びたかつたのではないのでしょうか。もし切られずに伸びていれば、ホテルの姿がほぼ見えなくなるまで高くなっていたことのように。



タイトル:ヨダレ垂れちゃった! 欲しいものはジッと見つめて、念力で引き寄せます!



もっともつとふおと 私の体液は、LAGER BEERでできています。 by TTLB

第23回ワンデーエクササイズ報告

今年度の第23回ワンデーエクササイズは30周年記念事業として平成28年10月29日(土)に岡山県医師会館の三木記念ホールにおいて開催されました。参加者は大学2校・専門学校2校・高校1校から全10チーム、82名の学生が参加し、「育つまち! つなぐまち!」次世代へつなぐ岡山中心街のカルチャーゾーンと観光地の融合の課題で旧岡山後楽館高校天神校舎跡地を課題地として岡山の文化と歴史、観光を多くの多世代の方々に親しんでいただくことのできる岡山の魅力発信の拠点とし、人(若者)が育ち、人がつながりそして多世代から次世代につながる新しい価値を創造できる建築の提案を発表しました。

提案作品はどれも岡山中心地が未来に向け夢あふれる。人々が集える楽しい空間の表現がされていた。図面、模型の完成度も力作ぞろい、プレゼンにも学生たちからの生みの苦しさや熱さを感じることができる。夢のつまった作品が並んだ。審査にあたっては、審査委員長に大御所でもある建築家の内藤廣先生をお招きし、具体的に的確な講評は、各作品の取り組んだ成果に対して参考になり今後の課題や実際に社会に出た時の取り組みに生きてくると思っています。そして優秀な作品であっても期限に遅れることは認めれないなど、作品の出来映えとは違う根本的なお話もわかりやすく指導いただいた。

時間的に余裕が無かったが「若者たちへのメッセージ」と題してご講演を頂きました。作品の作成で疲れていると思うので、寝ながら聞いてくれるのも良いと言われながらも、学生の皆さんは熱心に聞き入り、心に響くメッセージとなったようです。

最優秀賞及び各賞を受賞した学生の皆さんは、ワンデーエクササイズに取り組む過程で課題のコンセプト作成や模型作成など、そして当日のプレゼンを審査委員長をはじめ多くの人の前で行ったことは、将来に向けて得るものが多くこれから建築を目指す学生にとっては、貴重な経験となったと思います。

事業委員会 中桐 慎治



最優秀賞チーム 岡山理科大学 MSAラボ タイトル:文化と人々の共鳴



30周年記念事業 奈良見学会報告

9月30日(金)8時、岡山駅西口を夫婦2組・事務局合わせて25名を乗せてバスは出発。初めての奈良の見学会は始まりです。最初の「中家住宅」までの道中、バスは度々休憩です。やっと着いた「中家住宅」は静かに佇んでいました。広大な敷地は2重の濠に囲まれ、主屋・新屋敷・表門・蔵等々の歴史的建造物が数多く残されています。今も守っておられる女性の方が案内してくださったのですが、家への愛情が言葉に、態度に深く滲んでおり心に伝わってきました。お昼は、柿の葉寿司で有名な「平宗(ひらそう)」です。酔魚だけが苦手な私は心配していました。何とかお腹を満たさずまずの昼食でした。午後からは「法隆寺」です。二組に分かれて2時間半余り、ボランティアのガイドさんとひたすら歩き続けました。沢山の物を観て、沢山の話を聞いて、時間が経つと疲れたことしか残っていないという情けなさは、(この原稿は締め切り直前に頼まれたのです) 次の日は午前中フリーです。私は以前から気になっていた、興福寺の「阿修羅像」を訪ねました。ばらつく雨中の中、目指すは「阿修羅像」。思っていたよりかなり小さくて、片隅に静かに鎮座されていました。正面の愛いを含んだ人を惹きつける表情は喜びだそうです。左右はそれぞれ、後悔と悲しみとか、教科書とか本とかの写真と違って、立体は迫ってくるものがあります。華奢で可憐な姿のどか阿修羅神か?と腹立たしい。もともと阿修羅は戦闘神で荒々しい形相をしているのですが、この阿修羅像はとても穏やかで美しい! 奈良へ来た甲斐がありました。

今日の昼食は奈良ホテルです。ウッディーヨネダの米田顧問と合流し、みんなで楽しく美味しくお昼をいただきました。正面左のフロントはそのままでしたが、以前は右側がレストランだったと記憶しています。落ち着いた木造建築のクラシカルな空間での食事を期待してはいたのですが、いよいよ変わって当然なのです。午後は米田顧問と共に薬師寺(木材はウッディーヨネダさんが納入)に移動し、お寺さんの案内で回廊・金堂・三重の塔等の説明を聞きました。薬師寺と言えは高田好胤と西岡棟梁を思い浮かべます。お二人は薬師寺の再建に、絶大な情熱と努力を注がれた方です。そのエネルギー感もがらお寺を後にしました。すでに体力も頭脳も限界にきていたもので、唐招提寺は一人バスの中でみんなが帰って来るのを待ち、予定どおり7時頃岡山へ無事帰ってきました。

テーマ・交流委員会 山本 幸子

